

「昼下がりの紅白」

○登場人物

大前田けんじ（59）

香取詩音（30）

玉川ひろし（28）

須藤貴博（52）

立花美琴（32）

大前田けんじ事務所兼自宅。

上手側が事務所になっており、3台の机と椅子がある。中央の扉を挟んで下手側が、トイレになっており、洋式便座がある。

事務所社長、須藤貴博（52）と付き人の香取詩音、事務所所属の演歌歌手、玉川ひろしが事務所の椅子に座っている。

須藤

やあ、今年も今日で終わりかあ。

香取

振り返ればあっという間の一年でしたね。

玉川 ほんと早かったあ。

須藤 玉川、お前が一年早かったなんていうのはまだ早すぎるんだよ。仕事増やせ。

玉川 そうですね、すみません。

香取 ……。

須藤 ん？ どうした？ 香取？

香取 いや、私も仕事入れなきゃなって思っ

須藤 そうだな、香取も演歌歌手として、まだまだ半人前だからな。先生のそばについて多くを学べ。

香取 はい。

須藤 運転だけ気をつけろよ。お前には先生の付き人としての仕事もあるわけだから。

香取 この前、大前田先生にもう少しアクセル踏めって言われました。

須藤 安全運転でいいんだよ。大前田先生は演歌界の重鎮。日本の宝だ。何かあっちゃいけない。

玉川 入り時間何時でしたっけ？

香取 3時です。

玉川 今日は大前田先生の紅白大トリの姿、しっかり目に  
焼き付けます。

須藤 そうだな、先生から多くを学べ。

玉川 はい。

香取 (須藤に) 社長はNHKホール行かれないんです  
か？

須藤 うん、先生見送ったら、家に帰ってゆっくり見る  
よ。もう先生の紅白の姿は何度も見てるし。(腕計  
を見て) もう2時か。そろそろ行こう。

玉川 先生、下りてきませんね。

須藤 香取、先生呼んできてくれ。

香取 わかりました。

香取、上手側に去っていく。

須藤 前なら先生も奥さんに促されて時間には下りてきて  
きたもんだけどな。

玉川 奥さん、亡くなってもう何年になりましたっけ？

須藤 今年で4年目だろ。

玉川 4年かあ。まだ僕が事務所に入る前ですね。

須藤 奥さんの幸代（さちよ）さんが亡くなったときは、

先生も意気消沈してしまっ、悩んでたみたいだっ

たが、美琴さんのおかげで何とか氣力を回復した。

玉川 美琴さん、しっかりしてますからね。

須藤 うん、あのときは先生に娘さんがいてくれて良かったと本当に思ったよ。

玉川 美琴さんって何歳になるんですか？

須藤 お前、美琴さんの年齢しらないのか？

玉川 いや、あんまり聞くのもどうかと思って……。

須藤 32。

玉川 ああ、そうなんですな。

須藤 お前より4つ上。

玉川 彼氏とかいるんですかね？

須藤 そんなこと知らないよ。何だ、お前、もしかして考えてるのか？

玉川 いえ、何も考えてませんよ。

須藤 先生の娘さんに手を出そうなんていい度胸だ。

玉川 だから、考えてませんって。

須藤 逆玉の輿（こし）。

玉川 須藤さん！

須藤 まっ、一人前になったら考えることだな。

玉川 ……。

大前田けんじ、下手から現れる。

香取が入ってくる。香取は慌てた様子で大前

田のあとについてくる。

香取 先生！ 先生！

須藤 どうした、香取。

香取 いえ、あの、先生が！

須藤 先生がどうした？

香取 紅白に出ないとおっしゃって。

玉川 えっ？

大前田 須藤、俺が決めたことだ。何も言うな。

須藤 先生、本気でおっしゃってるんですか？

大前田 本気だ。

須藤 紅白大トリの先生が出場しないということになったら大変なことになります。

大前田 そんなことはわかってる。干されるだろうな。

須藤 干されるだけじゃ済みません。下手したら芸能界引退です。

大前田 そうだな。

香取 そうだなんて。

玉川 先生、何があったんですか？

大前田 いろいろだ、いろいろ。

須藤 もう2時です。早く出ないと入り時間に間に合わなくなります！

大前田 私は紅白には出ない。この大前田けんじが決めたことだ。何も言うな。

須藤 そういうわけにはいきません。私は微力ながらも17年間、先生を支えてきました。こんな終わり方は困ります。

大前田 須藤、実を言えば、俺はずっと引退を考えてきた。こんな中途半端な気持ちのままに紅白に出るわけにはいかないと考えて考えた末に出した結論だ。

須藤 それでも紅白をすつとぼすなんて考えられません。

大前田 うるさい！ 私は紅白には出ない！

玉川 紅白に出なかったら大騒動になります！

大前田 玉川、そんなことはわかってるんだ。

香取 何があつたんですか、先生！

大前田 とにかく俺は出ない。

香取 先生！

大前田、トイレの扉を開け、カギを閉め便座

にどっかりと腰を下ろし、両腕を組む。

香取、ドアノブをガタガタする。

香取 先生！ 先生！

大前田 うるさい！ ガタガタやるな！

香取 どうしましょう、須藤さん！

須藤 どうしましょうって言われてもなあ。

玉川 ちょっとこれは大変なことに。

香取 (須藤に) 連絡しましょうか？

須藤 どこにっ？

香取 とりあえずプロデューサーです。

須藤 いや、それはちよつと待て。こんなこと表沙汰になったら引っ込みがつかなくなる。先生を説得するしかない。

須藤、トイレの扉の前に行く。

須藤 先生、聞こえてますよね。

大前田 ……。

須藤 紅白に出ないと決めた理由教えてください。そうじゃないと私も納得できません。

大前田 須藤、いいことを教えてやる。おれが大きな決断をするときは理由は一つじゃない。

須藤 一つじゃない？ 一体、いくつあるんですか？  
大前田 いくつがある。

須藤 それならその理由、全部教えてください。

大前田 おれもよくよく考えてのことなんだ。放っておいてくれ！

須藤 放れません。私はこの大前田プロダクションの社長です。私にも責任というものがあるんです。

大前田 よくよく考えてみれば、紅白出場が決まった時点で出場を辞退するべきだったんだ。それは俺のミスだ。

須藤 ではその時点から悩んでおられたということですか？

大前田 そうだ。

須藤、トイレの前から離れて、事務机の椅子に座る。

須藤 参ったな、どうしようか？

玉川 まさか、こんな事態になるだなんて。

香取 あの、須藤さん。

須藤 なんだ？

香取 先生、急病にかかったということにしたらどうでしょうか？

須藤 急病？

香取 体調不良なら、世間も納得してくれるんじゃないでしょうか？

須藤 体調不良か……いや、でもなあ……。

玉川 仮病だったってことがもしバレたら……。

須藤 謝罪会見で先生は引退ということになる。

香取 引退！？

須藤 国民的長寿番組を嘘ですっぽかすんだ。引退だけではなく、先生の今までの功績が台無しになる。

香取 ……。

玉川 やっぱりトイレから出てもらいましょう。なんとしなくても紅白には出ないと。憧れの大前田先生の名前が汚されるなんて、おれは絶対に嫌です。

玉川、トイレの扉の前に行く。

玉川 大前田先生、玉川です。

大前田 ……。

玉川 いろいろ悩みはおありかもしれませんが、どうか紅白に出場してください。僕はずっと今日を楽しみに

してたんです。先生の大一番、また僕にも見せてください。

大前田

……。

玉川

演歌の大御所、大前田けんじの名前が汚されるのは僕には納得できません！ 先生の後ろ姿をずっと追いかけてきたんです！

香取も扉の前に行き、

香取

先生、わたしも玉川君と同じ思いです。トイレから出てきてください！

大前田

……。

玉川

先生、聞こえていますか？ 先生！

大前田

聞こえてるよ！ お前たちは俺の大事な弟子だ。あとのことは全部手配してやるから安心しろ！

香取

私たちのことはどうだっていいんです。先生の演歌人生の晩年を汚してほしくないんです。

大前田

晩年？

香取

そうです、晩年です。

大前田 そうか、もうおれは晩年と言われる歳になったか。

香取 あっ、いえ、すいません。

大前田 まあ、いい。おれももう59だ。晩年と言われても  
おかしくない。演歌一筋40年。よく考えれば節目  
の年だ。

香取 先生、出てきてください！

大前田 いやだ。断る。

香取 ……。

須藤 先生の意思は固いな。

香取 どうしましょう？

須藤 どうしましうって言われてもなあ、先生が紅白に  
出たくない理由がわからないとどうにもならない。

玉川 先生、どうして紅白に出たくないんですか？

大前田 理由があると言ってるだろう。

玉川 それを僕たちに話してください！

大前田 ……。

須藤 スキャンダルとか……。

香取 スキャンダル？

須藤 先生に隠し子がいるとか。

大前田 須藤、勝手におれの子供を作るな！

須藤 ん？ 先生、こっちの声、聞こえるのか？

大前田 全部聞こえてる。

須藤 失礼しました。

香取、玉川、扉の前から離れる。

須藤 参ったな

玉川 先生の悩みがわからない。

須藤 香川、お前、付き人だろ。先生の傍にいて、何か異変とかなかったか？

香川 異変？

須藤 何かいつもの先生と違うなあって思ったところ。

香川 (考えて) いつもの先生と違う……。

須藤 病気とか。

玉川 病気？

須藤 先生はきつと舞台に立っていられないんだ。倒れる姿を紅白では見せられない。

香取 紅白のリハーサルではいつもの先生でしたけど。

須藤　　リハーサルと本番では、まったく違う。リハーサルなら倒れても問題ない。が、生放送の紅白ではすべてが国民に見られてしまう。

玉川　　仮病ではなく、本当の病気だということですね。

香取　　先生、何か持病ありましたっけ？　私の知る限りでは病院に行っってませんけど。

玉川　　香取さんにはわからないようにこっそり病院に行っていたとか？

須藤　　まさか余命宣告とか受けてないだろうな？

玉川　　余命宣告？

香取　　紅白出場が決まった時に実は先生は……。

玉川　　余命宣告を受けていた。

須藤、トイの扉の前に行き、

須藤　　先生、いまの話、お聞きになっていたでしょう。ご病気ではないんですか？

大前田　　勝手におれの寿命を短くするな。おれはまだピンピンしてる。

須藤 正直に話してください、先生！

大前田 だから、病気じゃないって言ってるだろう。お前たちは、そんなに早く私に死んでほしいと思ってるのか？

須藤 そんなことは思ってますませんが、引退まで覚悟させる理由とはいったい何なんですか？

大前田 ……。

須藤 先生、理由をおっしゃってください。先生の紅白に出場しない理由がわからないと、わたしたちも何も動けません。

大前田 まず一つ目の理由だが……。

須藤 はい。

大前田 ヒット曲が出てない。

須藤 えっ？

大前田 ここ10年、おれが出した新曲でヒットはない。

まずい、まずいとずっと思ってきた。ヒット曲がないおれが紅白に出て、大トリをつとめていることが正しいのかどうかずっと悩まされてきた。

須藤

でも先生には、不動の人気曲の「夕凧（ゆうなぎ）」と、「男気一番（おとこぎいちばん）」があるじゃないですか。

大前田

どちらの曲も10年以上前の曲だ。

須藤

……。

大前田

昔の名前で売れている、それがおれの現実だ。

須藤

でも先生は座組公演も大盛況でファンはたくさんいます。

大前田

ファンの数と紅白は関係がない。紅白の大トリは後人（こうじん）に譲るべきではないか、ここ数年そう思ってきた。

須藤

たとえ、先生がそう考えていたとしても、突然の出演拒否はあり得ません。

大前田

須藤、おれはなあ、若い流しるときから酸いも甘いも舐めてきた。海千山千（うみせんやません）を乗り越えてきた。そのおれが自信を失くし、紅白に行こうとする足がすくむ。そんな状態で歌うことはできない。今日にいたって、それが身に染（し）みてよくわかってきたんだ。

須藤　なぜ、今日なんですか。

大前田　今日だからこそ、その思いに至ったんだ。

香取　先生、まだ引退は早すぎます！

玉川　そうですね、先生。僕は先生が歌う姿をまだまだ見たいです。きっと先生のファンも同じ気持ちです。

先生のほかに誰が演歌界を引っ張っていくんですか！

大前田　……。

須藤　先生、私が言うのもおこがましいですが、どうか冷静になって考えてください。こんな終わり方は絶対よろしくありません。

大前田　おれは今年で59だ。昔ならあと一年で定年だ。引退してもおかしくはない。

須藤　先生、演歌歌手に定年なんてありません。死ぬまで歌い続けると言っていたじゃないですか。

大前田　状況が変わったんだ。

須藤　……。

大前田　10年、ヒット曲がないんだ。ヒット曲がない年末の紅白に昔の名前で出演することに疑問を感じて

た。これでいいのか、と。

須藤

先生、先生だったらまだきつとヒット曲を生み出せます。

大前田

……。

香取

先生、トイレから出てきてください。先生があきらめたら、わたしたちはどうなるんですか。私だってもう先生の付き人になって7年になりますけど、ヒット曲は一つもありません。

玉川

おれだって、事務所に入って3年になりますけどヒット曲はありません。将来、先生のようになれるかどうか不安で一杯です。それでも頑張っています。

大前田

……。

須藤

先生、先生には華があるんですよ。先生が出て歌うだけで、ステージは盛り上がります。お客さんは先生を待ってるんです。

香取

ヒット曲があるだけで十分じゃないですか。しかも5曲も6曲もあります。やめちゃだめです！

大前田 5曲も6曲もない。おれが本当に納得がいつて歌つてるのは2、3曲だ。売れたからいい曲というわけではないんだ。

香取 それなら先生、売れてない曲だっていいものがあるということじゃないですか。この10年で先生が納得がいつている曲はないんですか？

大前田 ない。売れるのはまず大前提だ。そのあとでおれは曲の評価をくだしてるんだ。どうしてこの曲が売れるんだ？ と思う曲もある。

香取 たとえば納得いかない曲ってなんですか？

大前田 ……「まごころ」だ。

香取 「まごころ」名曲じゃないですか？

大前田 悪くはない。でもなあ、もつとクオリティーを上げられたんじゃないかと思う悔しい歌なんだ。

須藤 ストイックな先生らしい言葉だ。

香取 きわめて良い曲だと私は思いますが……。

大前田 悪くはないんだ。でも悔しさが残る歌だ。

玉川 先生、ご自分の曲の評価を下げないでください。私は「まごころ」が先生の歌で一番好きです。

大前田 うん。

玉川 あの曲のサビは心に響きます。聞いている人に感動も与えます。「まごころ」を聞いて涙される人も多い曲です。その曲の評価をどうか下げないでください。

大前田 うん。そう思う時もあるんだけどな。いま作ったらもっといい曲になっていたんじゃないかと思うんだよな。あの頃は若くて、作詞家にも作曲家にも意見が言えなかったし、俺にも経験が足りなかった。

玉川 それでも「まごころ」は先生の出世作です。

大前田 わかってる。

須藤 ヒット曲が10年ない。そんなことを先生が気にしているとは思わなかった。

香取 私も思いませんでした。

玉川 私もです。

須藤 今までのヒット曲で先生は十分だろうと思っていました。

大前田 おれは演歌歌手だぞ。ヒット曲出さなくてどうする？ ベテランだろうが新人だろうがそれは変わらない

い。

須藤 （扉に寄っていき）でも先生、紅白は出ましょう。

大前田 おれもプロだ。こんなことあつてはならないと思

う。でもなあ、須藤、おれが紅白に出ないと決心した理由はそれだけじゃないんだ。

須藤 あとの理由はなんですか？

大前田 ……。

須藤 先生！

大前田 みんなも良く知っていると思うが、おれの一番弟子だった朝倉丈一が今年の春、この世を去った。

須藤 それはもちろんわかってます。

大前田 おれはなあ、この10年、朝倉がいたからこそ、ヒット曲がなくても頑張つてこれたんだ。弟子が頑張つてる。ヒット曲も3年前に生み出した。負けてたまるかという気持ちでやってきた。でも、その朝倉が急死した。

須藤 ……。

大前田 意気消沈（いきしようちん）したよ。あいつだけが  
おれのライバルだと思ってた。死んだって聞いてか  
らなあ、俺は何かの糸がプツリと切れた。

須藤 ……。

大前田 弟子に負けるわけにはいかない。その思いがおれを  
支えてきたのかもしれない。最近の演歌界を見てみ  
ろ。人気低迷で、演歌には流行りのアイドルたちが  
バックを固めて、盛り上げ役になってる。そうでな  
ければ演歌は聞けないという時代になったんだ。た  
だ朝倉は違った。自分一人で舞台を盛り上げ、一人  
で歌うことを貫き通した。すごいやつだと思って  
た。おれも負けねえぞと、袴の帯をびしっと締めて  
舞台に立って歌った。でも、そいつが死んだ。何と  
か演歌界とともに盛り上げようとしてたんだ。ライ  
バルと言ってもいい。そいつが死んだ。

須藤 先生……。

大前田 何だろうな、このひとり取り残された感覚は……。

須藤 先生の可愛がっていた一番弟子が亡くなったこと  
が、ショックなのはわたしにも何となくわかります

が、意気消沈したから紅白に出ないというのは理由にはなりません。

大前田　なるんだよ。

須藤　何がです？

大前田　おれがヒット曲もなく紅白に出続けた理由は、あいつが見てるからだだったんだ。

須藤　先生は朝倉さんのために紅白で歌っていたんですか？

大前田　そうだ、あいつに、朝倉に見せるためだ。まだまだ負けねえぞ、と朝倉に伝えるためだった。

須藤　その朝倉さんが亡くなって紅白に出る意味がなくなつたということですか？

大前田　簡単に言えばそうだ。

須藤　これ、本当に駄目かもな。

香取　えっ？

須藤　先生、紅白に出ない理由が明白だ。

香取　いや、でも本当に出演しないということになったら先生は……。

大前田 歌う意欲がないやつが、紅白に出るわけにはいかな  
い。

須藤 参ったぞ。どうするか？

玉川 須藤さん、先生、何とか説得しましょう。まだあき  
らめちゃだめです。紅白も仕事です。すっぽかしち  
やダメです。

須藤 そうだな、プロとしての責任は果たしてもらわない  
と……。

大前田 そんなことはもちろん承知してるんだ。

香取 どうしたんですか、先生。いつもの先生とまったく  
違います。

大前田 ……。

須藤 先生、紅白だけは出ましょう！

大前田 いいかげんな気持ちで歌うのが紅白じゃないんだ。  
歌いたくないと思ってステージに立ったことはな  
い。いつも最大限の力を出し切る。それが出来そう  
にないから出ないと言ってるんだ。それもまたプロ  
だ。

玉川 一曲、歌うだけじゃないですか！

須藤 玉川！

大前田、トイレのカギを開けて出てくる。

大前田 玉川！ お前はそんな心持ちで歌ってるから一流に

なれないんだ。一曲入魂！ それがまだお前にはわかってない！

須藤 今だ！

須藤、香取、玉川、トイレの中に駆け込む。

須藤 よしつ、先生を外に出せたぞ。絶対にここに入れるな！

香取・玉川 はい！

大前田 お前たち、何、考えてるんだ。ここは事務所兼自宅だぞ。トイレなんてほかにもある。

大前田、上手に出ていこうとする。

須藤 そうだ、みんなでここに入ってどうする！？

玉川 だって、須藤さんが今だ、って言うから。

香取 先生行っちゃいます。

須藤 止めろ！

玉川、トイレから飛び出して大前田をつかむ。

大前田 離せ、玉川！ おれを誰だと思ってるんだ！

玉川 先生が何と言おうと絶対にこの手は離しません！

大前田 離せ！

玉川 離しません！ 紅白に出てください、先生！ こんな終わり方だけはしないでください！

須藤、香取も出てきて大前田をつかむ。

大前田 お前ら。服が破れるだろ、やめろ！

須藤 離すな、玉川！

玉川 わかっています！

香川 車までこのまま連れていきましよう！

大前田 おれが納得してないのに出演するわけないだろ！

須藤 いえ、出演してもらいます。演歌の大御所、大前田

けんじがこんな終わり方をしてはいけないんです！

大前田 わかった、わかった。お前たちの気持ちはよくわか

った。手を離せ。

須藤 本当にわかってもらえましたか？

大前田 わかったと言ってるだろう。

須藤 よしっ、みんな、手を離せ。

須藤、玉川、香取、大前田から手を離す。大

前田、すかさず、トイレに駆け込みカギをか

ける。

須藤 先生、わかってないじゃないですか！

大前田 玉川、一曲歌うだけです、というその発言、軽はず

みすぎる。取り消せ！

玉川 ……はい、すいませんでした。

須藤 先生の悩みは、わかってきた。

立花美琴が入ってくる。

立花 あら、みなさんお揃いで。

玉川 美琴さん！

須藤 ああ、美琴さん、どうも。

香取 (立花に) おはようございます。

立花 香取さん、おはよう。あれっ、お父さん、今日紅白だよね。まだいるの？

玉川 それがあのでいろいろ事情がありました。

立花 事情？ 何それ？

玉川 まあ、あの先生がいろいろと……。

立花 いろいろ？ 具合でも悪いの？

玉川 いえ、体調は悪くないようなんですが、どうも気分が乗らないらしくて。

立花 はあ？ 何それ。お父さん、どこ？

玉川 あちらのおトイレです。

立花 須藤さん、どうということ？

須藤 それが、あの、先生が紅白に出ないとおっしゃられ

まして、いまいろいろ説得してるんですが、なかなかうまくいかず……。

立花 本当に紅白出ないって言ってるの？

須藤 ええ。

立花、トイレの扉の前に来て、

立花 お父さん、何やってるの？

大前田 トイレに入ってるだけだ。

立花 紅白出ないって何？

大前田 仕事の話だ。お前は入ってこなくていい。

立花 本気で紅白出ないって言ってるの？

大前田 ……。

立花 ちょっと、鍵開けてよ。

大前田 開けない。

立花 開けろって言ってんだろうが、この馬鹿親父！

大前田 馬鹿とはなんだ！

立花 どうせまた持ち前の頑固さ發揮して、須藤さんたち

困らせてるんでしょ！

大前田 頑固じゃない。決断しただけだ。

立花 紅白ドタキャンなんてありえないでしょ。この鍵開けてよ！

立花、扉のノブをガタガタ動かす。

立花 お父さん！

大前田 ガタガタやるな！

立花 いい歳したおっさんが、こんなトイレにこもって何やってるの！

大前田 籠城（ろうじょう）だ、籠城。

立花 籠城？

大前田 おれはここから動かない！

立花 紅白出ないって言ってる理由は何？

大前田 須藤たちに話した。そっちで聞け。

立花 須藤さん、理由は何？

須藤 一つは10年間、ヒット曲がないこと。それと一番弟子の朝倉丈一が今年の春に亡くなったことだそうです。

立花　　またお母さんが亡くなったときみたいに気落ちして  
るわけだ。

須藤　　ええ、どうやら気持ちが上がってこないらしく。

立花　　またどうせ引退とか言ってるんでしょ？

須藤　　言ってます。

立花　　お父さん、引退なんてありえないからね。紅白出な  
いとかわがままなこと言っていないで早く出てきて。

大前田　嫌だ。

立花　　紅白、当日に出ない歌手なんて聞いたことないわ  
よ。お父さん、プロでしょ！

大前田　プロだからこそ出ないんだ。こんな気持ちのまま  
歌うわけにはいかないんだ。一曲入魂（いききよく  
にゆうこん）、それがおれのスタイルだ。

立花　　いろいろな感情があるのはわかるけど、人に迷惑か  
けないで。須藤さんたちの立場もあるでしょ。

大前田　……。

立花　　お父さん、鍵開けて。ボロボロでもなんでもいいか  
ら歌ってきて！

大前田　お前におれの気持ちの何がわかるんだ。お前は歌は

やってない。だからわからないんだ。

立花 須藤さん。

須藤 はい。

立花 このドアノブ壊しましよ。業者に連絡して。

須藤 えっ。

立花 扉ごと取っ払って、ここから出す。引きずりだしてやるわ。

須藤 いや、しかし。

香取 実は一回、トイレから出たんです。でも行かないと  
かたくなに断って。

玉川 トイレから出てもらっても先生がその気になっても  
らわないと出演は無理です。

立花 まったくめんどくさいわね。お父さん、鍵開けて！

立花、ドアノブをガタガタと動かす。

大前田 やめろ、うるさい！

立花 こんなことして、引退したら天国のお母さんだって  
悲しむでしょ。こんな終わり方をするためにお母さ

んはお父さんを支えてきたわけじゃない！

大前田

……。

立花

お母さんにどう言い訳するつもりなの！

大前田

幸代か……幸代ならきつとわかってくれるはずだ。

立花

わからないわよ。ただ意気消沈して、だだこねてる子供だもの。

大前田

一曲入魂！

立花

だから、気合入れて一曲歌ってこいって言うてんの！

大前田

お前にはわからないいろいろなことがあるんだよ。

立花

10年間ヒット曲がないんですよ。来年、作ればいいじゃない。

大前田

そんな簡単にヒット曲が出ると思ってるのか。

立花

やるしかないでしょ。

大前田

おれの一番弟子も死んだんだよ。

立花

だから何？ しよげるより、朝倉さんの分まで歌うのが、供養つてもんでしょ。

香取

さすが娘さん。

須藤

バツサリだな。

玉川　　すごい。

大前田　（立花に）お前は歌の世界で生きてない。俺の気持

ちの何がわかるって言うんだ！

立花　　わからないわよ！

大前田　今は全力で歌える状態じゃないんだ。

立花　　深く考えすぎなんじゃないの？

大前田　……。

立花　　ねえ、お父さん、何を考えてるの？

大前田　……おっかさんだ。

立花　　何？ おっかさんって言った。

大前田　そうだよ、おれのおっかさんだよ。

立花　　おばあちゃんがどうしたの？

大前田　……。

立花　　ちよつと、ちゃんと説明してよ。

大前田　おれのおっかさん……。

大前田、ハンカチを出して涙を拭う。

立花　　お父さん？　泣いてるの？

大前田 おれの大事なおっかさん……。

立花 何よ、何があったのよ。

大前田 (涙にくれている)……。

立花 須藤さん、おばあちゃんのこと何か聞いてる？

須藤 いえ、私は何も聞いてません。

立花 お父さん、おっかさんって何のことなのよ。

大前田 (涙にくれている)……。

立花 お父さん！

大前田 おれを見てもわからないんだ。おふくろはおれのことを忘れた。きっと歌もわからない。

立花 何？ 何があったの？

大前田 美琴、おれの母さんは5年前から認知症だ。それは知ってるだろ？

立花 うん。

大前田 この前、仙台公演があったから、少し足を延ばして青森のおふくろに会いに行ったんだ。そしたらな、おれを見て「どなたさまですか」と言われてな。息子だと伝えてもわからないんだ。

立花 ……。

大前田 正直、ショックでな。信じられない思いだ。

立花 おばあちゃんが父さんを忘れた……。

大前田 おれのおっかさんはなあ、若くして親父を亡くして女手（おんなで）一つでおれと弟を育ててくれた。小さな居酒屋を青森で開いてな、夜、遅くまで働いた。おれが演歌を始めたのは、店のカラオケでおれが歌うと、おっかさんが、うまい、うまいとほめてくれたからなんだ。そのおっかさんがおれを忘れてしまった。

立花 ……辛いのはわかるけど、それでも歌うのがプロってものでしょ。お父さん、そんなのいくらでも乗り越えてきてるはず。

大前田 いや、だめなんだ、こればかりだめなんだ。

立花 どうして？

大前田 ……。

玉川 あっ、今日、先生が紅白で歌う曲って……。

香取 「泣いてくれるなおっかさん」。

須藤 ああ、そういうことかあ！

立花 何？

須藤 今日、先生が紅白の大トリで歌う曲、先生の初期の

ヒット曲「泣いてくれるなおっかさん」なんです。

この曲は、先生が上京するときに青森に残した母を  
思って作られた曲です。

立花 ……。

大前田 おれの大切なおっかさん。青森から寝台列車で東京  
に向かうおれを涙ながらに見送ってくれた。それを  
思うととても普通に歌える気がしない。

玉川 そういうことだったのかあ……。

須藤 紅白に出ないと先生が言った最大の理由はそれだ。

香取 (涙ながらに) 先生！ 先生！

大前田 歌えない。いまの状況であの曲は辛い。

立花 お父さん……。

大前田 まさか、おっかさんが俺のことを忘れるなんて。

立花 じゃあ、私のことも思い出せないかな？

大前田 いや、それはわからない。

立花 病氣、進んじやっただね。

大前田 うん、ある程度覚悟はしてたけどな、そういう日  
がくるかもしれないと。

立花

……。

須藤

さて、どうするか……。

香取

入り時間迫ってます。

須藤

とりあえず、遅れるって電話入れとくか。

香取

理由は？

須藤

先生の体調不良だ。

大前田

紅白は、出ないと連絡してくれ。まともに歌えそうにない。

立花

お父さん、おばあちゃんは確かに息子のことは忘れたかもしれないけど、歌は覚えているんじゃないの？

大前田

わからない。

立花

わからないなら、歌ってみればいいじゃない。お父さんは歌で人を喜ばせてきた。たとえ息子だとわからなくても、おばあちゃん、楽しんでくれるかもしれないでしょ。

大前田

考えるだけでも涙が止まらないんだ。「泣いてくれるな、おっかさん」なんて普通に歌えない。

立花

そうね、涙、ぼろぼろになるかもね。

大前田 そうだろ。紅白の大トリがそれじゃだめだろ。

立花 だめかもね。

玉川 美琴さん！

立花 じゃあ、引退かあ。

須藤 美琴さん、ちよつと待ってください。

立花 (トイレに向かって) ってそんな甘い仕事なわけないでしょ！ 涙ぼろぼろでもなんでもいいから歌ってきて！

大前田 大衆の前で恥をかきたくない。

立花 涙ぼろぼろ、泣き崩れても、それもありじゃん。

大前田 あり？

立花 大前田けんじ、涙の熱唱って新聞にかかれるでしょ。ドタキャンよりマシだわ。

大前田 ……。

須藤 先生、それでいきましよう！

大前田 それで行きましようってなんだ？

須藤 大前田けんじ、涙の熱唱です。

大前田 断る！

立花 ほんとに面倒くさいお父さん。ここまで頑張ってた

姿を見て、尊敬してたけど、失望したわ。

大前田

……。

立花

お母さんに何て報告すればいいのよ？

大前田

幸代か。

立花

お母さんが生きてたら、事情があるにせよ、紅白に行かない、なんて許さなかったと思う。

大前田

……。

立花

おばあちゃんがお父さんを忘れたのは相当ショックだけど曲なら覚えてるかもしれないじゃない。そして、自分の息子を思い出すってこともあるかもしれないでしょ。

大前田

覚えてるかな？

立花

わたしは絶対におばあちゃんは曲を覚えてると思う。だって一番そばで応援してきた人だと思うから。

大前田

うーん……。

須藤

先生、お母さんのためにも出ましよう。私も曲は覚えてるように思えます。必ず喜んで聞いてくれるはずです。

香取 先生、紅白出ましょう。お母さんのためにも。

玉川 亡くなった朝倉さんも先生に自分の分まで頑張っ  
てほしいと思っているはずです。日本国民が先生の歌  
う姿を待っています。どうかファンを裏切らないでく  
ださい！

大前田 うーん……。

立花 お父さん！！

大前田、拳を強く握り立ち上がると、トイレ  
のカギを開けて出てくる。

大前田 いま、何時だ？

須藤 2時半です。

大前田 まだ間に合うか。

香取 間に合います。

大前田 なあ、須藤、おれは10年ヒット曲がない。そんな  
ことで紅白に出て大丈夫か？

須藤 先生はストイックだからそう考えるんです。昔のヒ  
ット曲で、出場歌手がいるのは先生もご存じのはず

です。

大前田

うん……天国の朝倉はどう思っているだろうか？

須藤

朝倉は先生の歌が大好きでこの業界に入ってきた。彼も天国から先生が紅白で歌う姿を見たいはずです。

大前田

おれが涙ながらに歌うような姿をお客さんや視聴者はどう思うだろうか？

須藤

ぼろぼろの姿でも歌う。理由をしらないだけにファンはとまどうかもしれないが、先生が何かを抱えながら、それでも必死に歌っている。その姿はきくと国民に勇気を与えるはずだ。

大前田

うまいこと言うようになったな。

須藤

わたしの本心を申し上げたところです。大前田けんじは決してファンを裏切ってはいけないんです。

大前田

……うん。

大前田、ゆっくりまぶたをつむり、腕を組み考える。そしてしばらくして目を開けて、

大前田　　でるか、紅白。

立花　　お父さん、辛いだろうけど頑張ってきて。

香取　　先生はここで終わるような人ではありません。

玉川　　わたしも香取さん同様、そう思います。

大前田　　この歳になっても、まだ悩み苦しむとはな。

須藤　　先生が並々（なみなみ）ならない情熱で演歌をやってきた証拠です。

大前田　　並々ならない情熱か。

立花　　そんな人が紅白ばつくれたらまずいでしょ。

香取　　ばつくれ（笑）

須藤　　香取、ガレージから車出して来い。先生、入り時間ギリギリだ

香取　　わかりました。

香取、上手に去る。

須藤　　先生、いきましようか。

大前田　　うん。

立花　　お父さん、しっかり！

美琴、大前田の背中を叩く。

大前田 美琴、お前、本当に幸代に似てきたな。

立花 お母さんはこんな暴言吐かないでしょ。

大前田 そりゃそうだ。

立花 天国のお母さんも絶対、聞いてると思うから、一曲入魂でやってきて。

大前田 そうだな。幸代も見てるだろうな。

玉川 先生、みんなのために歌ってください。僕も見えます。

大前田 できれば涙を流したくない。

須藤 先生、泣いたっていいじゃないですか。見てる人みんなが何かを感じ取ってくれるはずですよ。

大前田 翌朝のスポーツ紙に、大前田けんじ大号泣って書かれたくないんだよな。

立花 またお父さん、弱音吐いてる。

大前田 美琴、この歳になるとな、涙もろくなるんだよ。

須藤 (腕時計を見て) 先生、そろそろお時間が。

大前田 わかってる。

大前田けんじ、深呼吸を何度か繰り返してか  
ら、

大前田 よしっ、行こう。戦場だ。

須藤 私も今日は行くことにしました。よろしいですね？

大前田 (須藤に) うん、お前がいてくれると心強い。

須藤 ありがとうございます。

立花 大前田けんじ節(ぶし)、思いっきりやってきて。

大前田 うん。

須藤 では、先生、行きますか。

大前田 よしっ、行こう。

須藤 ありがとうございます。

大前田 いや、礼を言うのはこっちのほうだ。びっくりさせ  
たな。

須藤 大変、辛い心中(しんちゆう)かと思いますが、陰  
ながら見守ります。

大前田、うなづいて事務所から出ていく。

(上手)

玉川 美琴さん、ありがとうございました。

立花 いえ、私は何も。

玉川 いえ、美琴さんがいなかったら、先生、本当に紅白  
出なかったと思います。

立花 まったくとんでもないこと言い出すんだから、あの  
父親は。

玉川 じゃあ、私も行きます。早く出ないといけないん  
で。

立花 うん、そうして。

玉川 あの、美琴さん……。

立花 ん？

玉川 いえ、また今度にします。いつか僕もヒット曲、出  
して見せますんで。

立花 うん、頑張つて。

玉川 はい！

玉川、出ていく(上手)

照明、舞台ステージに変わる。

立花（紅組司会者）今夜の紅白、最後の曲となりました。大前田けんじさんはデビュー40周年。長い時に渡り、演歌を通じて人々に愛と勇気を伝えて来られました。その歌声は私たちの胸に深く残り、決して失われることはありません。それでは曲紹介、お願いします。

玉川、入ってくる。

玉川（白組司会者）今夜、たくさんの素晴らしい歌を聞くにいたり思ったことは、歌は人生を必死に生きる人たちにエールを送っているということです。そのエールを受けて、私たちもまた強く生きていかなければなりません。今夜の最後に力強い気持ちを込めて歌っていただきます。白組の歌い納（おさ）めです。大前田けんじさんで、「泣いてくれるなおっかさん」。

大前田けんじ、和服姿でマイクを持って現れ

る。紙吹雪が舞い、大前田、深く頭を下げ  
る。万雷の拍手が起こる。

大前田

日本中の皆さん、私の歌をお聞きいただき、ありが  
とうございました！

大前田、深くお辞儀をする。

(幕)